令和６年度小江原小学校学力向上プラン

【学校教育目標の実現】

『心豊かで　自ら学ぶ　小江原っ子の育成』

～自律し、尊重し合う子どもを育てる～

「ねばり強く学び合う子」　「心と体をきたえる子」　「互いに理解し支え合う子」

【学力向上の取組】

『育てたい力』『身に付けさせたい力』を明確にした授業づくり

◎国語科の校内研究を推進し、魅力ある言語活動を設定するとともに、問題解決的学習を展開する。
◎「めあて」と「まとめ」を確実に位置付け、単元や１単位時間のゴールを明確にした授業実践
◎児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるツールとして、「見通しボード」を活用する。
〇「まず」「次に」「最後に」「だから」などの言葉を用いた説明活動の充実
〇発表や反応の仕方など話形を示した共通理解・実践
〇自分の考えや学んだこと等を書く活動の位置付け。

家庭学習・学習規律の定着

◎「算数」「漢字」「音読」「キュビナの活用」など、家庭学習に関する共通理解・実践
◎計算力・漢字の書き取りの力の向上（単元末テストの知識及び技能の観点で平均９０点を目指す。）
◎コミュニケーション能力の育成、話す・聞く力の土台作りとして「ばるっ子子タイム」を実践する。
〇スキルタイムを活用した基礎学力の定着
〇「学びの習慣化メソッド」保護者への啓発
〇国・県・市学力調査結果の検証に基づく活用

読書指導の充実

〇国語科における並行読書や多読の推進
〇学期１回の教職員による読み語りの実施
〇図書ボランティアによる昼休みの読み語りの実施

【本校の児童の実態】

〇与えられた課題にしっかり取り組む児童が多い。
〇興味があることへの学習意欲が高い。
〇これまでの研究により「まず」「次に」「最後に」「だから」などの言葉を用いて説明できる力が定着しつつある。
▲人の話を最後まで聞くことができない児童が多い。
▲算数の文章問題が苦手である。
▲思考力・表現力が十分でない。

【令和６年度学力調査の結果から】

▼６年生は、国語科・算数科ともに、全国平均を下回っている。
▼５年生は、国語科は県平均を上回っている。算数科はやや下回っている。
〇４年生は国語科・算数科ともに市平均を上回っている。
▼３年生は、国語科・算数科ともに市平均をやや下回っている。
◇国語科では、「文脈を理解し表現する力」「言葉に関する力」に課題がある。
◇算数科では、「事実・方法・理由」を書くことに課題がある。
※「基礎的な知識・技能の定着」「論理的に考え・表現する力の向上」が全ての教科において必要である。